



みんなのえがお

あいさつ1番! えがお1番! 元気1番!

川上小学校 学校だより 第17号

2026年2月13日

文責: 校長 村山輝美



空飛ぶ体験当たり前化計画 (バルーン体験)

佐賀市の市町村合併20周年を記念し、市内の小学生約1万人を対象に熱気球(バルーン)の係留搭乗機会を提供する事業です。夢や感動を届けるとともに、地域愛の醸成とバルーンの街としての誇りを高めることを目的として、2025年度の1年間を通して実施されています。

2月6日に川上小学校でも、バルーン係留搭乗体験が行われました。朝8:30にスタートし、1年生から6年生まで、ほぼ全員(高いところが苦手な児童は乗っていません)が、順番にバスケットに乗り、3階の高さくらいまで上げてもらいました。

初めは不安そうだった子どもたちも、降りる時は笑顔いっぱいでした。

朝七時過ぎから、十五名のスタッフの方たちがバルーンの準備をして下さいました。



佐賀市「子どもへのまなざし運動」のマスコットキャラクターである、まなざし君もやってきました!



1年生むかしあそび体験

2月10日3.4時間目に1年生が生活科の学習で、「むかしあそび大会」を実施しました。地域の皆さんにたくさん参加していただき、いろいろな遊びにチャレンジすることができました。



始めの会や終わりの会、自分たちで司会進行を行いました。



けん玉



羽根つき



だるまおとし



たこ揚げ



竹とんぼ



紙飛行機



昔ながらの遊びには、最新のゲーム機やスマホにはない「五感を刺激する深み」と「理にかなった学び」が詰まっています。

例えば…けん玉やコマ回し、お手玉は、「全身運動」です。膝を使ってリズムをとったり、手首の微細なスナップを利かせたりすることで、集中力と体幹、そして手先の器用さが自然と養われます。竹とんぼや紙飛行機は、「どうすれば長く飛ぶか？」を考え、翼の角度を調整したり力加減を変えたりと、まさに航空力学の試行錯誤です。たこ揚げは、風を読み、糸のテンションを感じる。目に見えない「空気の流れ」をダイレクトに感じる貴重な体験です。教科書で習う前に、子どもたちは遊びを通して科学の基礎を学びます。おはじきのキラキラしたガラスの美しさは、色彩感覚を養う情操教育にも繋がります。

そして何よりも昔遊びの最大の良さは、「教える・教わる」のサイクルが生まれやすいことです。おじいちゃんやおばあちゃんがヒーローになれる瞬間であり、言葉がなくても一緒に遊ぶだけで世代間の壁を越えた交流が可能です。ルールがシンプルだからこそ、自分たちで新しいルールを付け加える「創造性」を発揮する余地もたくさんあります。現代の遊びは「与えられたプログラム」の中で動くことが多いですが、昔遊びは「自分で工夫しないと動かない」ものばかりです。この「思い通りにいかないもどかしさ」を工夫で乗り越える経験こそが、今の時代に必要な「生きる力」につながるのではないのでしょうか。

寒い中ではありましたが、とても楽しく有意義な時間になりました。

4年生 音楽 三味線教室

1月29日、二人の先生に来ていただき、三味線教室を行いました。「さんぽ」の演奏に合わせて歌ったり、一人ずつ楽器を持って演奏体験したり、日常では、なかなか耳にしない和楽器の音色を味わえる貴重な体験でした。

